

令和2年度

鳴門西小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実」
- ②「学校と家庭との連携による生活・学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

委員	校長・教頭	
学力向上推進員	低学年推進員 杉田 いずみ	人権教育主事 佐伯 玲子
杉田 いずみ	中学年推進員 矢野 瑞季	教務主任 藤田 美智子
	高学年推進員・研修主任 永松 千智	

校長

黒田 博章

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	漢字の読み書きや四則計算などについては、ある程度の定着が見られる。読書に興味・関心をもつ児童が多い。	①国語・算数の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②文章の内容を正しく読み取ったり、要点を抑えて話を聞いたりするとともに、主述の整った文章を書くことができる。	①単元ごとの確認テスト基礎問題で80%以上の児童の正答率を80%以上にする。		
課 題	学力に三極化傾向が見られる。読んだり書いたりする習慣が十分身に付いていない。語彙力・聞く力に課題がある。	①よいノートや日記の紹介等、モデルを示して児童の書く意欲を高め、板書やノート指導を充実させる。 ②朝の活動や授業中に、漢字・計算や視写、音読、読書の時間を設けて繰り返し学習させ、定期的に小テストを行う。	①一週間に1回以上の日記指導を行い、定期的によりノートの提示を行う。 ②漢字・計算の定着確認テストを単元ごとに1回以上実施する。	評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	体験活動を好み、意欲的に活動できる。調べ学習や目標が明確で見通しのつく課題には安心して取り組み、思ったことを素直に発表できる児童が多い。	①調べたり体験したりした情報を整理し、話したり書いたりすることで、自分の考えを自信をもって相手に伝えることができる。 ②自分の考えと比べながら、相手の意見を聞くことができる。	「学習中、発表している。」(学校評価)児童の割合を70%以上にする。		
課 題	友達の意見を聞いて、自分の意見と比べたり自分の考えを整理したりして思考を深めることが難しい。	①自分の考えを書いたり説明したりして話し合い互いの思考を深めることができる学習活動を積極的に取り入れる。 ②研修により、互いの思考を深める有効な手立てを共有し、授業改善に生かす。	①自分の思いや考えを発表する機会を一日に1回以上設ける。 ②指導技術を共有できる研修(授業研究・グループワーク等)を行う。	評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	家庭学習の習慣が定着してきた。与えられた課題については真面目に取り組む児童が多い。	①学習の構えができている。 ②家庭学習を自主的に行い、問題解決に進んで取り組むことができる。 ③多様なジャンルの本を選んで読んでいる。	「うまくいかない時も、がんばり続けることができる。」(学校評価)児童の割合を85パーセント以上にする。		
課 題	学習用具の準備・学習態度など、生活・学習習慣の定着が十分でない児童がいる。難しいことや疑問に思ったことを追求しようとする意欲が乏しい。	①各学年の「家庭学習の手引き」をもとに、自主学習の習慣化を図る。 ②すべての教科で、めあてを明確に提示するとともに、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ、児童が見通しをもって学習できるようにする。	①自主学習の方法や内容の評価を月1回以上行う。学年便りや懇談などで伝え、家庭への啓発を行う。 ②めあてを提示し、振り返る活動を行った(自己評価)割合を90%以上にする。	評価	次年度における改善事項

令和2年度 学力向上ロードマップ

